

相馬通信

「震災絵日記」展

…… 東日本大震災から10年を振り返る ……

朝倉悠三^(※1)「震災絵日記」展は、南相馬市博物館で、10月3日まで、一ヶ月間開かれていた。

(以下、震災絵日記チラシより選択転載)



彼は、原発事故による避難から帰宅した後は、数百棟もの仮設住宅が立ち並んでいく自宅周辺の変化や、そこに暮らす被災者の生活を毎日目の当たりにしていました。自らの経験と被災者に対する眼差しから、自然の脅威、被災者の悲哀、政治不信、未来への希望を強く感じていました。

「震災絵日記」は、彼の感性を絵と言葉で伝えた風刺画作品群で、『福島民報』に2011年5月1日から2019年3月31日まで、410点が掲載され、福島県民から多くの共感を得てきました。さらに、風刺画研究者からも注目を浴び、2019年3月にはオーストラリアのメルボルン工科大学で展示会が開催され、海外からも大きな反響がありました。



(※1) 高普11回 昭和34(1959)年卒 鹿島出身。馬城かわら版第7号に記述。